

にいざ

歴史だより

第29号 (令和2年8月)



新座市は今年50歳！

《発行》

新座市立歴史民俗資料館

片山一丁目21番25号

TEL:048-481-0177

FAX:048-481-0149

MAIL:rekimin@city.niiza.lg.jp

「温故知新」～歴史が私たちに教えてくれたこと～

現在に至るもなお猛威を振るっている「新型コロナウイルス」…。

目に見えないウイルスが世界中にもたらしている数々の出来事は枚挙にいとまがないほどです。

全世界に拡散し、私たちの暮らし方まで変えてしまった「新型コロナウイルス」は、世界史の一大事件として刻まれることでしょう…。

過去の歴史をさかのぼっても天然痘^{てんねんとう}やコレラ等、時間の長短はあれ、人類は幾多の細菌やウイルスに立ち向かい、克服してきた歴史があります。

「コロナ禍」をきっかけに、先人たちのたゆみない努力により幾多の困難を乗り越えてきたことを知り、歴史から学ぶことの大切さをあらためて実感した次第です。

今は「雌伏の時」です。気軽に出かけることができない息苦しく暑い日々が続きますが、「新しい生活様式」を守って安心して生活できる日常が戻るのを待ちましょう！

再開しました！

当館も「新型コロナウイルス」対策のために4月1日から休館を余儀なくされましたが、去る6月2日から通常開館しております。

「災い転じて…」のことわざではありませんが、皆さんが来館されたときに新たな発見ができるよう、限られたスペースで展示の見直しなどを行いました。

お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください！

【コーナー展示のお知らせ】

8月1日(土)から8月29日(土)まで「新座の遺跡展」第3弾「新開遺跡第12地点」の遺物展示を開催します！

【歴史民からのお願い】

- 1 発熱等体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください
- 2 マスクは必ず着用してください
- 3 入館前の手指消毒と検温にご協力ください
- 4 団体(6人以上)での来館はご遠慮ください
- 5 館内の注意書きに従い、静かに鑑賞してください



展示の見直しと新コーナーを設置しました！

先にご案内しましたが、長期休館の間に一部の展示について展示ケースを増やすなどの見直しを行い、さらに当館学芸員イチ押しの資料を展示する「資料館瓦版」コーナーを設置しました。「資料館瓦版」はおおむね月1回入れ替えを実施する予定です。



【新展示ケースを導入】

腰高のケースを導入し、より自然な姿勢で見ることができるよう調整しました。

また、ケースのサイズを統一したことで見栄えも良くなったよな！？



【懐かしの一品！】

雑誌『冒険王』と『少女』
(展示物は昭和24年～26年のもの)
漫画雑誌と侮るなかれ！

当時の子どもの暮らしや、世相などを垣間見ることができる貴重な資料です。執筆陣もあまりに豪華過ぎて驚くばかり！



【資料館瓦版】

中世(鎌倉時代ごろと推定)の板石塔婆(板碑)です。

一部分のみの展示ですが、お花の彫刻が素朴ながらも美しい逸品です！(ぜひ皆さんの目でお確かめください)

長期連載『ふるさと残照』①

当市職員向けに発行していた広報誌『市内広報 新座』に長きにわたって連載された『ふるさと残照』から、季節や世相に合ったものをランダムに掲載していきます。

第1回目は夏にちなみ「野火止^{すいか}西瓜と俳人小林^{いっさ}一茶」…。果たして、その関係やいかに！

かの有名な小林一茶の句に、なんと郷土を詠んだものがある。当世一流の俳人であった一茶が文化5年(1808)7月に川越街道を江戸から信州に帰る途中、かねて交友のあった草津の黒岩忠右衛門のもとを訪ねた折の旅日記『草津道の記』に

…野火止の里は、昔男の我もこもれりとありし所と聞くに、その辺りに思はれてなつかしく、この辺り西瓜を作る。

「瓜^{うり}むいて芒^{すすき}の風に吹かりけり」

とあり、野火止の西瓜についての記事がみられるのである。信州の農村に生まれ、一流の俳諧師として名を挙げた小林一茶の句にはこうした農村の生活がよく詠み込まれている。実に貴重な一句である。

いかがでしたでしょうか？「我もこもれり」は『伊勢物語』の一節ですが、果たして一茶が野火止のどの場所を詠んだのか、現在その足跡を追うことは叶いませんが、かの俳人一茶が旅の途中に新座の地を訪れていたという事実には驚きます。